

放射線科 初期研修プログラム

必ず習得するアウトカム

1. 日常臨床で役立つ基礎的画像診断能力を身につける。
2. CTやMRI、RIの原理、適切な撮像法、依頼の仕方、安全性について理解する。
3. がん治療における放射線治療の役割、適応疾患、照射方法について理解する。

研修目的

放射線診療の基本的知識を身につけ、適切な画像検査法を選択・依頼し、得られた画像を正しく診断する能力を身につけることを目的とする。またがん治療における放射線治療の特色と役割を理解することを目的とする。

研修目標

◇一般目標

- 1) 放射線診断は主にCT検査およびMRI検査について、画像診断の基礎（原理、撮影方法、画像解剖、読影方法）、安全性を学ぶ。
- 2) 放射線治療の役割、適応疾患と照射方法を学習する。

◇行動目標

- 1) 放射線被曝の基礎知識と被曝低減について学ぶ
- 2) 画像診断で必要となる画像解剖について学ぶ
- 3) CT、MRI、RIの検査の特色、適応、安全性を学ぶ
- 4) 画像検査法の依頼（とくに臨床情報の提供の重要性）について学ぶ
- 5) 日常臨床において頻度の高い疾患の画像診断における特徴を学ぶ
- 6) CT、MRI、RI画像を読影・解釈し、画像診断レポートを作成する
- 7) 放射線治療の特色、適応疾患と照射方法について学ぶ

◇研修期間中に経験可能な疾患・疾病、および手技

中枢・末梢神経系、頭頸部、胸部、腹部、骨盤部、骨軟部領域において頻度の高い疾患を中心とした画像診断、日量臨床で頻度の高い悪性腫瘍に対する放射線治療を経験できる。

画像診断レポート作成目標 150 件/3 ヶ月

放射線治療計画目標 15 件/3 ヶ月

研修方略

- 1) 放射線被曝の実際、被曝低減のための具体的方法について学ぶ
- 2) 実際の症例の画像を診ながら、画像解剖について学ぶ
- 3) CT、MRI、RI 検査を見学し、手技に立ち会う
- 4) 画像検査を依頼し、臨床情報の提供の重要性を理解する
- 5) 日常臨床において頻度の高い疾患の画像について多くの症例を経験する
- 6) CT、MRI、RI 画像を読影・解釈し、放射線診断医の補助を得ながら画像診断レポートを作成する
- 7) 放射線治療の初診から治療計画まで関わる
- 8) 治療中・治療後の症状・画像所見の変化をもとに、治療効果判定、副作用の評価を行う

研修評価

- 1) 以下の日常臨床において頻度の高い疾患について、画像診断レポートを作成できる
 - ・頭部：血管性病変、腫瘍性病変、炎症性・変性疾患
 - ・頭頸部：腫瘍性病変、炎症性疾患
 - ・胸部：びまん性肺疾患、炎症性疾患、腫瘍性病変
 - ・腹部：肝、胆道系、膵、泌尿器系、婦人科系の疾患
 - ・骨軟部：脊椎・脊髄疾患、関節の炎症性・変性疾患
 - ・救急疾患一般
- 2) 以下の癌について、基本的な放射線治療計画が立案できる
 - ・肺癌、乳癌、食道癌、転移性骨腫瘍、転移性脳腫瘍

週間予定表

	午前	午後	夕方
月	CT, MRI 読影	CT, MRI, RI 読影	
火	治療計画	治療計画	
水	CT、MRI 読影	CT, MRI 読影	
木	治療計画	治療計画	
金	CT、MRI 読影	CT、MRI 読影	

指導責任者および指導医

指導責任者：小山周樹

指導医：田村亮

〃：松浦智徳

〃：佐谷望

〃：古積麻衣子

〃：加賀谷由里子

〃：江原 茂

学生（4～6年生）や他科研修中研修医のカンファレンスの参加の可否

参加可 ・ 参加不可

研修医発表会、学会発表に対する指導体制

指導医が症例呈示、スライド作成の方法について指導する

同時期に受け入れ可能研修医数（1クール：3ヶ月）

1 名/1クール